

市民俳歌柳壇

毎月20日で締め切り、締め切り日の翌々の広報うつのみやで入選作品を発表します。

特選

三たての謂れ読みつつ走り蕎麦

横山2丁目 小野 則雄

●特選の選評 作者はそば通の人と思われる。九月初旬のころ、まだ少し青みを帯びているそばを早刈りし、その粉で打ったそばを走りそば（新そば）とも言つ。三たてとは、挽きたてで、打ちたて、揚げたての三拍子揃った状態で、香りよし、味よし、おいしくいただくそばのいわれと承知して箸を付けた。実に滴の落ちる様が見えるような、見事な一句である。

俳句



加茂都紀女先生

入選

なつかしや昔おやつの衣被ぎ

東岡本町 志鳥 香代子

かき混ぜて半分づつの寒卵

幸町 渡邊 公之

迎春や黄鮎根付けに守られて

立伏町 大樹 龍五郎

初日の出願いを誓ふ老の夢

不動前2丁目 山中 ヒロ子

特選

ゆるやかにすぐる渡虫日暮れ時
郷の山にも初雪がふる

針ヶ谷1丁目 糟屋 宮子

●特選の選評 渡虫＝雪虫。日暮れ時の幻想を見たような一首が立ち上がった。雪虫は現実だろうが、なぜか、顔や体に触れることがない。そして近くの山にも初雪が降った。ああ、今年も冬がやってくるのだと作者も私たちをもしみじみさせる納得の歌だ。

短歌



藤本 都先生

入選

菊の香に包まれしばし眼とづ
見様見真似の懸崖作り

下岡本町 高尾 信尚

貴婦人の落し物かも暗闇に
灯をかざし見る烏瓜の花

岩曾町 吉永 のり子

風吹けば櫻の木の葉の果てるまで
庭に散り敷く未練と言ふて

下田原町 五十嵐 由美子

飼い猫は南の出窓炬燵の中
私の膝と回遊魚のごと

中岡本町 中沢 智子

特選

あと五分布団が僕を離さない

東鳩田2丁目 渡辺 眞左

●特選の選評 朝晩の冷え込みが身に染みる季節になってきた。朝起きるのがおっくうになる。予定さえ無ければ暖かい布団にいつまでも包まっていたいが、無職の老いにもやらねばならない事が多々ある。止むを得ず起き出すという実感句で共感できる。

川柳



佐藤隆久先生

入選

思い出は秋の夜長の紙芝居

雀宮町 和田 優介

御指名があつて昭和の十八番うた

元今泉1丁目 池田 篤信

歳重ね今日が一番明日を待つ

清原台6丁目 小太刀 節子

利子つけて受けた優しき貯金する

中戸祭1丁目 阿部 壽美江

俳歌柳壇の応募方法

- 1人各3句（首）以内。俳句・短歌・川柳の併記は不可。
- 対象は市内在住者で、未発表作品。年齢問わず応募できます。
- はがき表面＝住所・氏名・ふりがな・応募する壇名。
- はがき裏面＝作品（漢字にはふりがなも）・作品への思い。
- 毎月20日（消印有効）までに、〒320-8540市役所広報広聴課☎（632）2028へ。
- WEBによる応募も受け付けます。詳しくは、市☎をご覧ください。

ID 1022877



▲市☎

表

住所・氏名・壇名	ふりがな
宇都宮市役所 広報広聴課	

裏

作品への思い	作品への思い
--------	--------